

⑥刊行物に関する事業一覧

プロジェクト及び刊行物の名称	担当部門	頁
『東京文化財研究所年報』（*情05）	企画情報部	95
『東京文化財研究所概要』（*情05）	企画情報部	95
『東文研ニュース』（*情05）	企画情報部	95
平成21年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（美04）	企画情報部	95
無形文化遺産部出版関係事業（無04）	無形文化遺産部	96
「保存科学」50号の出版（保04）	保存修復科学センター	97
第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書（修07）	保存修復科学センター	98
『博物館資料の保存環境』出版のための準備（保06）	保存修復科学センター	99
『日本絵画史年記資料集成 十五世紀』（*美01）	企画情報部	100
『研究資料 脱活乾漆像の技法 附・奈良時代史料にみえる彩色関係語彙データベース』（*美03）	企画情報部	100
『平等院鳳凰堂 仏後壁 調査資料目録—蛍光画像編—』（*情01）	企画情報部	101
『大徳寺伝来五百羅漢図 銘文調査報告書』（*情01）	企画情報部	102
『韓日共同研究報告書2010』（*修01）	保存修復科学センター	102
『国宝及び特別史跡 白杵磨崖仏の保存修復に関する調査報告書』（*修01）	保存修復科学センター	103
『中期計画プロジェクト 文化財の防災計画に関する調査研究報告書』（*修02）	保存修復科学センター	103
『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2010年度』（*修03）	保存修復科学センター	103
International Course on Conservation of Japanese Paper 2010（*修05）	保存修復科学センター	104
『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成22年度（絵画／工芸品）』（*修04）	保存修復科学センター	104
『コンクリート構造物の保存と修復』（*修06）	保存修復科学センター	105
Preservation and Utilization of Steel Structures（*修06）	保存修復科学センター	105
『東アジア地域の文化遺産—文化遺産保護国際協力活動を通じて我々は何を発見し共有しうるか—』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	106
『西アジアの文化遺産—その保護の現状と課題』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	107
第24回国際文化財保存修復研究会報告書『覆屋保存を考える』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	107

『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究 平成22年度成果報告書』(＊セ02)	文化遺産国際協力センター	108
『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究2010』(＊セ04)	文化遺産国際協力センター	108
『關於陝西省墓葬壁画記録保存方法的研究2010』(中国語版)(＊セ03)	文化遺産国際協力センター	108
『アジナ・テパ仏教寺院考古学調査報告(2006～2008年)』(＊セ05)	文化遺産国際協力センター	109
『バーミヤーン遺跡保存事業概報—2009・2010年度(第9・10次ミッション)—』(＊セ05)	文化遺産国際協力センター	110
『バーミヤーン仏教石窟の建築構造およびその意匠と技法』(＊セ05)	文化遺産国際協力センター	111
『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復 2009年度(第5次～第7次ミッション)』(＊セ05)	文化遺産国際協力センター	112
『タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所アーカイヴ、カフカハ遺跡群出土壁画』(＊セ05)	文化遺産国際協力センター	112
『カライ・カフカハⅠ、Ⅱ遺跡出土壁画資料集 写真編2』(＊セ05)	文化遺産国際協力センター	113
『アジャンター第2窟、第9窟壁画 ドキュメンテーションと状態調査』(＊セ05)	文化遺産国際協力センター	113
Indo-Japanese Project for the Conservation of Ajanta Paintings, 2008(＊セ05)	文化遺産国際協力センター	114
『出土金属の保存処理』(＊セ06)	文化遺産国際協力センター	115
Conservation Treatment for Archaeological Metal Objects(＊セ06)	文化遺産国際協力センター	116
『海外の文化財保存修復専門家養成を目的とする国際研修等の実施に関する研究会』(＊セ06)	文化遺産国際協力センター	117
『東京文化財研究所蔵書目録 漢籍編』(＊情03)	企画情報部	117
『国際資料室蔵書目録』(＊セ08)	文化遺産国際協力センター	118
『各国の文化財保護法令シリーズ[9] フランス』(＊セ07)	文化遺産国際協力センター	118
『各国の文化財保護法令シリーズ[10] タジキスタン』(＊セ07)	文化遺産国際協力センター	119
『各国の文化財保護法令シリーズ[11] ブータン』(＊セ07)	文化遺産国際協力センター	119

- ＊注 ・『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』は、所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業(ニュースレター・概要・年報)(③情05)の一環として実施した。
- ・『日本絵画史年記資料集成 十五世紀』は、東アジアの美術に関する資料学的研究(①美01)の一環として実施した。
- ・『研究資料 脱活乾漆像の技法 附・奈良時代史料にみえる彩色関係語彙データベース』は、美術の技法・材料に関する広領域的研究(①美03)の一環として実施した。
- ・『平等院鳳凰堂 仏後壁 調査資料目録—蛍光画像編—』は、高精細デジタル画像の応用に関する調査研究(①情01)の一環として実施した。
- ・『大徳寺伝来五百羅漢図 銘文調査報告書』は、高精細デジタル画像の応用に関する調査研究(①情01)の一環として実施した。

- ・『韓日共同研究報告書2010』は、周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（①修01）の一環として実施した。
- ・『国宝及び特別史跡 白杵磨崖仏の保存修復に関する調査報告書』は、周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（①修01）の一環として実施した。
- ・『中期計画プロジェクト 文化財の防災計画に関する調査研究報告書』は、文化財の防災計画に関する調査研究（①修02）の一環として実施した。
- ・『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2010年度』は、伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（①修03）の一環として実施した。
- ・International Course on Conservation of Japanese Paper 2010は、国際研修「紙の保存と修復」（⑤修05）の一環として実施した。
- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成22年度（絵画／工芸品）』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（②修04）の一環として実施した。
- ・『コンクリート建造物の保存と修復』は、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（①修06）の一環として実施した。
- ・Preservation and Utilization of Steel Structuresは、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（①修06）の一環として実施した。
- ・『東アジア地域の文化遺産—文化遺産保護国際協力活動を通じて我々は何を発見し共有しうるか—』は、文化財保存施策の国際的研究（②セ01）の一環として実施した。
- ・『西アジアの文化遺産—その保護の現状と課題』は、文化財保存施策の国際的研究（②セ01）の一環として実施した。
- ・第24回国際文化財保存修復研究会報告書『覆屋保存を考える』は、文化財保存施策の国際的研究（②セ01）の一環として実施した。
- ・『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究 平成22年度成果報告書』は、アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究（②セ02）の一環として実施した。
- ・『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究2010』は、敦煌壁画の保護に関する共同研究（②セ04）の一環として実施した。
- ・『關於陝西省墓葬壁画記録保存方法的研究2010』（中国語版）は、陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究（②セ03）の一環として実施した。
- ・『アジナ・テバ仏教寺院考古学調査報告（2006～2008年）』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
- ・『パーミヤーン遺跡保存事業概報—2009・2010年度（第9・10次ミッション）—』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
- ・『パーミヤーン仏教石窟の建築構造およびその意匠と技法』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
- ・『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復 2009年度（第5次～第7次ミッション）』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
- ・『タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所アーカイヴ、カフカハ遺跡群出土壁画』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
- ・『カライ・カフカハⅠ、Ⅱ遺跡出土壁画資料集 写真編2』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
- ・『アジャンター第2窟、第9窟壁画 ドキュメンテーションと状態調査』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
- ・Indo-Japanese Project for the Conservation of Ajanta Paintings, 2008は、西アジア諸国等文化

- 遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
- ・『出土金属の保存処理』は、諸外国の文化財保存修復専門家養成（②セ06）の一環として実施した。
 - ・Conservation Treatment for Archaeological Metal Objectsは、諸外国の文化財保存修復専門家養成（②セ06）の一環として実施した。
 - ・『海外の文化財保存修復専門家養成を目的とする国際研修等の実施に関する研究会』は、諸外国の文化財保存修復専門家養成（②セ06）の一環として実施した。
 - ・『東京文化財研究所蔵書目録 漢籍編』は、専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③情03）の一環として実施した。
 - ・『国際資料室蔵書目録』は、国際資料室の整備（③セ08）の一環として実施した。
 - ・『各国の文化財保護法令シリーズ[9] フランス』は、文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（③セ07）の一環として実施した。
 - ・『各国の文化財保護法令シリーズ[10] タジキスタン』は、文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（③セ07）の一環として実施した。
 - ・『各国の文化財保護法令シリーズ[11] ブータン』は、文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（③セ07）の一環として実施した。

所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*③情05）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③情05）の一環として実施した。詳細は、63頁を参照。

平成21年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（⑥美04-10-5/5）

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。美術部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。2002（平成14）年において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成21年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成21年版は、下記のような構成をとり、B5版441ページとなった。

2009（平成21）年美術界年史

美術展覧会（企画展、作家展、団体展）

美術文献目録

定期刊行物所載文献

美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展）

物故者

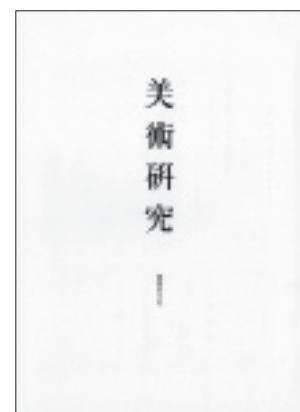


研究組織

○田中淳、山梨絵美子、塩谷純、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕、中村節子、菅沼万里絵（以上、企画情報部）

『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、約75年にわたり、日本・東アジアの古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文・図版解説・研究ノート・書評・展覧会評・研究資料を掲載している。年3冊刊行。本年度は以下の通り401号、402号、403号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合より助成を受けた。



『美術研究』401号（22年度第1冊／2010年8月刊行）

（論文）鄭于澤（石附啓子訳）「朝鮮王朝時代における釈迦誕生図の図像研究」

（論文）塩谷純「川端玉章の研究（三）」

（研究資料）津田徹英「奈良国立博物館蔵 木造南無仏太子立像」

（書評）皿井舞「富島義幸『密教空間史論』」

『美術研究』402号（22年度第2冊／2011年2月刊行）

（論文）石守謙（植松瑞希訳）「夏文彦から雪舟へー『図絵宝鑑』と、十四・十五世紀東アジアにおける山水画の歴史的理解の形成ー」

⑥刊行物 Area19

(図版解説) 山梨絵美子「平成二十一年度に寄贈された黒田清輝作品について—《舟》《芍薬》《日清役二龍山砲台突撃図》《林政文肖像》二点—」

『美術研究』403号(22年度第3冊/2011年3月刊行)

(論文) 皿井舞「神護寺薬師如来像の史的考察」

(論文) 土屋貴裕「『天狗草紙』の作画工房」

『無形文化遺産研究報告』(⑥無04-10-5/5:無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施)

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。

『無形文化遺産研究報告』第5号

菊池理予「我が国における工芸技術保護の歴史と現状
—染織技術を中心として—」

森下愛子「近・現代の京焼における伝統的意匠の継承
—伝統の継承に関する一考察—」

星野紘「過疎地の伝統芸能の苦闘」

松山直子「無形文化遺産保護条約における“Traditional Craftsmanship”」

飯島満・永井美和子・中山俊介「フィルモン音帯に関する調査報告」

星野厚子「〔資料紹介〕浅田正徹採譜楽譜」

金子健「〔資料紹介〕梅村豊撮影歌舞伎写真(三)」



『無形民俗文化財研究協議会報告書』(⑥無04-10-5/5:無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施)

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第5回にあたる本年度は「無形の民俗の保護における博物館・資料館の役割」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。

テーマ「無形の民俗の保護における博物館・資料館の役割」

高桑いづみ「序にかえて」

I. 俵木悟「趣旨説明」

II. 報告

*報告1 前田一舟「マーラン船の民俗技術の保護と継承—市民協働の資料館活動—」

*報告2 六郷寛「築27年目の『再開館』—芸北民俗芸能保存伝承館の試行錯誤—」

*報告3 榎美香「生活文化伝承のために博物館ができること・できないこと

—『体験博物館』がめざす先—」

*報告4 小境卓治「氷見の獅子舞—天狗が獅子を殺して祭りが終わる—」

鈴木瑞麿「田園空間博物館における伝統芸能の保存と継承

—ひみ獅子舞ミュージアムの活動について—」



- III. 総合討議
- IV. 参考資料
- V. アンケート結果

「保存科学」50号の出版 (©保04-10-5/5)

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告および修復処置概報等を掲載している。



『保存科学』第50号

亀井伸雄「『保存科学』50号出版のご挨拶」

犬塚将英、多比羅菜美子、佐野千絵

「収蔵庫内の温湿度環境とスチール棚の表面温度」

三村衛、長屋淳一、石崎武志

「動的解析による高松塚古墳の損傷要因の検討」

小椋大輔、銚井修一、高橋公一、木村奈津子

「鬮鷄山古墳の石槨内部発掘調査時の空調制御方法に関する研究」

Rudolf PLAGGE, Takeshi ISHIZAKI and Masahide INUZUKA

「Simulation Analysis on the Drying Process of Tuff Breccia Stone Composing the Stone Chamber of Takamatsuzuka Tumulus」

朽津信明「日本における覆屋の歴史について」

今井健一郎、二神葉子「諸外国における文化財の把握と輸出規制の概要」

藤澤明、島津美子、佐藤由季、松岡秋子「壁画断片とマウントの接着方法及び接着強度の検討」

加藤雅人、君嶋隆幸、酒井良次、川野邊渉

「三軸織物、紙貼合シートの特性—紙本絹本文化財の裏打を想定して—」

呂俊民、佐野千絵、加藤和歳「内装材料の異なる収蔵庫の空気環境の比較」

吉川也志保、佐野千絵、石崎武志

「亜寒帯湿潤大陸性気候における資料保存環境調査

—付着菌、空中浮遊菌のサンプリングを中心として—」

原田正彦、野村牧人、木川りか、小峰幸夫、林美木子、川野邊渉、石崎武志

「栃木県日光山内・中宮祠・中禅寺の歴史的建造物を対象とした捕虫テープによる広域虫害調査について」

林美木子、小峰幸夫、木川りか、原田正彦、川野邊渉、石崎武志

「日光の歴史的建造物において捕虫テープ（ハエ取り紙）に捕獲された甲虫の集計方法及び調査結果」

小峰幸夫、林美木子、木川りか、原田正彦、三浦定俊、川野邊渉、石崎武志

「日光の歴史的建造物で確認されたシバンムシ類の種類と生態について」

木川りか、小峰幸夫、鳥越俊行、原田正彦、今津節生、本田光子、三浦定俊、川野邊渉、石崎武志

「日光の歴史的建造物を加害するシバンムシ類の殺虫処理方法の検討」

藤井義久、藤原裕子、木川りか、原島誠、喜友名朝彦、杉山純多、早川典子、川野邊渉

「厳島神社大鳥居の生物劣化調査」

藤井義久、藤原裕子、須田達、鈴木佳之、喜友名朝彦、杉山純多、小峰幸夫、木川りか、川野邊渉

「東本願寺阿弥陀堂の生物劣化調査」

藤井義久、藤原裕子、木川りか、川野邊渉、永石憲道、中嶋啓二

「ガンマ線を用いた木製円柱の内部劣化の検出」

木川りか、佐野千絵、喜友名朝彦、立里臨、杉山純多、早川典子、川野邊渉

「キトラ古墳の微生物調査報告 (2010)」

林美木子、ニコラ・マッキオーニ、ピエロ・ティアノ、吉田直人、佐野千絵、イオン・サンズ

「ルーマニアにおける板絵の伝統的予防処理方法とその効果」

吉田直人「可視反射スペクトルと二次微分スペクトルによる青色色材の判別に関する検討」

早川泰弘「ポータブル蛍光X線分析装置による沖縄県所在ガラス製品の現地調査」

北野信彦、本多貴之、松尾昭子、高妻洋成

「鷹島海底遺跡出土の元寇関連漆製品に関する調査」

吉田直人、佐野千絵、石崎武志「展示公開施設の館内環境調査報告 一平成21年度一」

第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 報告書 (⑥修07-10-1/1)



『日本絵画の修復 一先端と伝統一』

刊行にあたって

目次

(凡例)

開催要項

組織委員会

開催趣旨

プログラム

報告

鬼原俊枝 (文化庁・日本) 「日本における絵画修理の理念」

川野邊渉 (東京文化財研究所・日本) 「日本絵画修復における自然科学の役割」

杉山恵助 (大英博物館・英国) 「大英博物館における日本絵画の保存修復」

ジェニファー・ペリー (クリーブランド美術館・米国) 「クリーブランド美術館における東洋絵画修復」

中山俊介 (東京文化財研究所・日本)

「東京文化財研究所事業『在外日本古美術品の修復協力プロジェクト』における海外工房での修復」

大川昭典 (和紙技術研究者・日本) 「材料からみた和紙の歴史的変化」

稲葉政満 (東京芸術大学・日本) 「和紙の保存性」

加藤雅人 (東京文化財研究所・日本) 「補紙・補絹の動向」

早川典子 (東京文化財研究所・日本) 「絵画修復に使われる糊と布海苔」

森田恒之 (愛知県立芸術大学客員教授、国立民族学博物館名誉教授・日本) 「日本の膠」

田畔徳一 (国宝修理装飾師連盟・日本) 「乾式肌上げ法—伝統技術から近代技術へ—」

山本記子 (国宝修理装飾師連盟・日本) 「新しい材料と新しい技術—科学の裏づけと技術者の選択—」

ブライス・マッカーシー (フリーア美術館とアーサー M. サックラー ギャラリー・米国)

「フリーア美術館における科学的研究と絵画のコンサベーション」

ジャッキー・エルガー (ボストン美術館・米国)

「ボストン美術館における日本絵画コレクションの保存修復と科学分析」

本田光子、藤田励夫、志賀智史 (九州国立博物館・日本)

「伝統を継承する先端施設の取り組み—九州国立博物館の場合—」

Frontispiece

Preface

Contents

Notes

Details of the symposium

Organizing Committee of the Symposium

Statement of Intent

Program

Report

Toshie Kihara / Agency for Cultural Affairs / Japan, Principles of the restoration of paintings as cultural property established in Japan

Wataru Kawanobe / National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo / Japan, The role of science in the restoration of Japanese paintings

Keisuke Sugiyama / The British Museum / UK, Conservation of Japanese paintings at The British Museum, London

Jennifer Perry / The Cleveland Museum of Art / USA, The Conservation of East Asian Paintings at the Cleveland Museum of Art

Shunsuke Nakayama / National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo / Japan, Conservation of Japanese paintings in an overseas studio

Akinori Okawa / Researcher of washi-making techniques / Japan, Historical changes in the varieties of washi

Masamitsu Inaba / Tokyo University of the Arts / Japan, The durability of washi

Masato Kato / National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo / Japan, Trends in infilling paper and infilling silk

Noriko Hayakawa / National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo / Japan, Nori and funori for the restoration of Japanese paintings: Starch paste, aged paste and seaweed paste

Tsuneyuki Morita / Aichi Prefectural University of Fine Arts and Music, National Museum of Ethnology / Japan, Nikawa: Animal glue in Japan

Tokuichi Taguro / The Association for Conservation of National Treasures / Japan, “Dry” method for removing the initial lining

Noriko Yamamoto / The Association for Conservation of National Treasures / Japan, New materials and new techniques: Scientific support and the restorers’ choice

Blythe McCarthy / Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery / USA, The tradition of science and paintings conservation at the Freer Gallery of Art

Jacki Elgar / Museum of Fine Arts, Boston / USA, Conservation and scientific analysis of the Japanese painting collection at the Museum of Fine Arts, Boston

Mitsuko Honda, Reio Fujita and Satoshi Shiga / Kyushu National Museum / Japan, Work of a contemporary facility transmitting tradition: Case of the Kyushu National Museum

『博物館資料の保存環境』 出版のための準備 (©保06-10-2/2)

大学における学芸員養成科目の改正に伴い、「博物館資料保存論」が新設された。この改正に対応するために、博物館・美術館保存担当学芸員研修資料から保存環境に関する部分を抜き出し、教科書の作成を開始した。読者層としては、博物館学取得希望の大学学部生、教員、学芸員を想定している。本年度は編集会議を行い、この教材が取り扱う内容、構成及びレイアウトに関する検討を行った。そして、以下の章立てで執筆し、試行版の教科書である『博物館資料保存論』を作成した。2011年3月8日から10日にかけて開催し

⑥刊行物 Area20,21

た「博物館資料保存論対策講座」において、教材として使用した。さらに内容の検討と校正を行い、来年度に出版する予定である。

- 第1章 総論
- 第2章 温湿度環境
- 第3章 光と照明
- 第4章 室内空気汚染
- 第5章 生物被害
- 第6章 屋外環境
- 第7章 災害の防止と対策



『日本絵画史年記資料集成 十五世紀』（①美01の一環として実施）

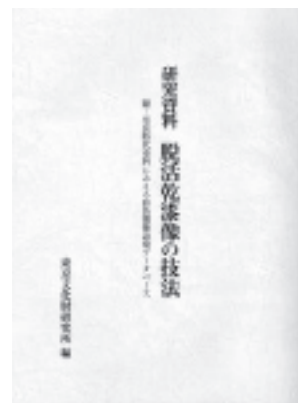
室町時代の盛期にあたる15世紀の100年間（応永8年1401～明応9年1500）に、主として日本で制作された絵画に記された銘記類のうち、年銘をともなうもの833件（内訳：絵画725件、書蹟・典籍43件、その他65件）を翻刻し、年代順に集成したもので、昭和59年刊行の『日本絵画史年記資料集成 十一十四世紀』の続篇である。「東アジアの美術に関する資料学的研究」の平成22年度の研究成果報告書として刊行した。A5判720頁、2011年3月刊行、中央公論美術出版より市販。内容は以下の通り。



- 亀井伸雄「はじめに」
- 目次
- 凡例
- 本文
- 参考書目
- 綿田稔「後序」
- 所蔵者索引
- 所在都道府県索引
- キーワード索引（抄）

『研究資料 脱活乾漆像の技法 附・奈良時代史料にみえる彩色関係語彙データベース』（①美03の一環として実施）

本書は、平成18年度から5か年計画の企画情報部研究プロジェクト「美術の技法・材料に関する広領域的研究」（美03）の一環として、天平時代の脱活乾漆造の仏像の技法解明を目的に行った調査研究の報告書。X線透過画像を含む図版（モノクロ）を各作例の基礎データとともに収載した。あわせて、この研究プロジェクトの一環として同時進行で行ってきた奈良時代史料にみえる彩色関係語彙データベースをCD版にて添附した。



亀井伸雄「はじめに」

目次

図版編

- 一 観音菩薩坐像 香川・願興寺
- 二 菩薩半跏像 神奈川・龍華寺
- 三 如来頭部 兵庫・金蔵寺
- 四 菩薩立像 東京・個人蔵
- 五 如来坐像 東京・高円寺
- 六 菩薩面部 奈良・薬師寺
- 七 天部袖残欠 大阪市立美術館
- 八 僧形頭部 大阪市立美術館
- 九 菩薩坐像 大倉集古館蔵
- 附 脱活乾漆像に用いられた麻布

本文編

- 一 観音菩薩坐像 香川・願興寺
- 二 菩薩半跏像 神奈川・龍華寺
- 三 如来頭部 兵庫・金蔵寺
- 四 菩薩立像 東京・個人蔵
- 五 如来坐像 東京・高円寺
- 六 菩薩面部 奈良・薬師寺
- 七 天部袖残欠 大阪市立美術館
- 八 僧形頭部 大阪市立美術館
- 九 菩薩坐像 大倉集古館蔵
- 脱活乾漆技法覚書 津田徹英
- 奈良時代史料にみえる彩色関係語彙データベース 國本学史
- 附 彩色関係語彙データベースCD

『平等院鳳凰堂 仏後壁 調査資料目録—蛍光画像編—』（①情01の一環として実施）

本書は、平成16年から17年にかけて平等院と共同で行われた鳳凰堂仏後壁の調査成果報告書。平成20年度刊行のカラー画像編、平成21年度刊行の近赤外線画像編に続く、第3冊目にあたる。

神居文彰「文化財という可能性」

亀井伸雄「本書の刊行にあたって」

凡 例

目 次

撮影エリア目録

分割画像

部分画像

鳥光美佳子「平等院鳳凰堂仏後壁における光学調査と画像資料の利用について」



⑥刊行物 Area21

『大徳寺伝来五百羅漢図 銘文調査報告書』（①情01の一環として実施）

ご挨拶

高田明浦 「刊行にあたって」

湯山賢一 「刊行にあたって」

亀井伸雄 「刊行にあたって」

凡 例

目 次

谷口耕生 「共同研究の概要」

五百羅漢図

カラー全図

カラー部分図

銘文画像

絹目画像

各論

城野誠治 『大徳寺伝来五百羅漢図』 銘文の可視画像化について」

近藤一成 「有官施入者銘文の意味すること」

井手誠之輔 「大徳寺五百羅漢図の成立背景」

北澤菜月 「林庭珪と周季常、二人の画家とその傾向について」

谷口耕生 「木村徳応筆五百羅漢図一失われた大徳寺本六幅をめぐって」

ユキオ・リピット 「大徳寺五百羅漢図一その世界的な評価」

大徳寺五百羅漢図 一覧表

銘文リスト

Overview of Collaborative Research by Taniguchi Kōsei



『韓日共同研究報告書2010』（①修01の一環として実施）

国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告書。

大韓民国文化財庁・国立文化財研究所との共同刊行。

小椋大輔、銚井修一、高橋公一、木村奈津子

「史跡・鬮鷄山古墳の石槨内部発掘調査に伴う空調制御手法に関する研究」

イ・ソンミョン、シン・ウンジョン、イム・ボア、パク・ソンミ

「和順雲住寺石造仏群の損傷と周辺環境影響の分析」

イ・テジョン、キム・サドク 「慶州感恩寺跡三層石塔の保存処理」

イ・チャンヒ、チョ・ジヒョン、キム・ジヨン、森井順之、イ・ミョンソン、キム・サドク 「日本・大分県臼杵磨崖仏像群の損傷度評価と微気候環境分析」

イ・ミョンソン、イ・ジェマン、森井順之

「臼杵石仏群に対する保存処理剤の適用研究」

森井順之 「国宝及び特別史跡・臼杵磨崖仏の次期保存修理計画」



『国宝及び特別史跡 臼杵磨崖仏の保存修復に関する調査報告書』（①修01の一環として実施）

国宝及び特別史跡・臼杵磨崖仏の次期保存修理計画立案のため、平成12年度より臼杵市と共同で実施した調査研究成果報告書。225ページ。

はじめに

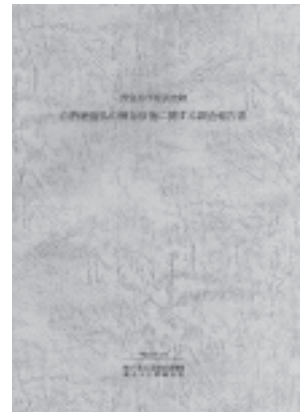
臼杵磨崖仏で現在見られる劣化現象

劣化要因解明のための現地調査

劣化防止策の提案

おわりに

成果一覧



『中期計画プロジェクト 文化財の防災計画に関する調査研究報告書』（①修02の一環として実施）

平成18年度からの中期計画プロジェクト「文化財の防災計画に関する研究」にて、この5カ年で得られた成果をまとめた報告書。78ページ。

研究概要

主な研究成果

2-1 文化財防災情報システムの構築

2-2 塑像及び乾漆像の地震対策に関する調査

2-3 木造建造物の振動特性に関する調査

成果一覧

参考資料

調査風景



『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2010年度』（①修03の一環として実施）

刊行にあたって

カラー口絵

< 調査研究報告 >

加藤雅人、浅田真帆、野尻久美子、菊池理予

「表装裂資料データのデジタル化」

北野信彦、山口加奈子「巖島神社における外観塗装材料の劣化に関する調査」

加藤雅人、君嶋隆幸、酒井良次、川野辺渉

「三軸織物、紙貼合シートの特性

— 紙本絹本文化財の裏打ちを想定して — 『保存科学』 vol.50より引用」

北野信彦、原島誠

「巖島神社摂社（重要文化財）大元神社本殿及び玉殿の旧塗装材料である赤色顔料、彩色材料の分析調査」

北野信彦、本多貴之、松尾昭子「鷹島海底遺跡出土漆製品の調査」

北野信彦、石川崇「松江城下町遺跡出土漆器資料の材質、技法に関する調査」



⑥刊行物 Area21

北野信彦、竜子正彦、柏田有香「法勝寺塔跡出土軒平瓦に付着した赤色顔料の調査」

—付録 表具裂資料データベース 目録

International Course on Conservation of Japanese Paper 2010 (⑤修05の一環として実施)

On the Publication of the Report on the International Course
on Conservation of Japanese Paper 2010

刊行にあたって

Course Schedule

研修日程

List of Participants

研修生リスト

List of Lecturers

講師リスト

Record

記録

Questionnaire

アンケート



『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成22年度(絵画/工芸品)』(②修04の一環として実施)

平成22年度、在外日本古美術品保存修復協力事業の対象作品の修復に関する報告。

刊行にあたって

在外日本古美術品の事業報告

保存修復協力事業/所蔵博物館一覧/現地作品調査

(絵画篇)

カラー口絵

歌舞放下芸観覧図屏風

半田昌規「修理報告」、江村知子「作品解説」

達磨図

君嶋隆幸「修理報告」、綿田稔「作品解説」

唐子図

君嶋隆幸「修理報告」、津田徹英「作品解説」

(海外工房に於ける修復作業及びワークショップ)(ドイツ技術博物館)

(工芸品篇)

カラー口絵

山下好彦「和歌浦蒔絵将棋盤」

松本達弥「近江八景蒔絵香棚」

松本達弥「蕪蒔絵大鼓胴」



松本達弥 「秋草虫籠蒔絵茶葉入」
(海外工房に於ける修復作業及びワークショップ) (ケルン東洋美術館)

『コンクリート建造物の保存と修復』(①修06の一環として実施)

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書

はじめに

刊行にあたって

目次

中山俊介(東京文化財研究所)「コンクリート建造物の保存と修復」

小林裕幸((財)文化財建造物保存技術協会)

「鉄筋コンクリート躯体の補修—名勝池田氏庭園洋館の事例—」

西岡聡(文化庁文化財部参事官室(建造物担当))

「コンクリート造文化財建造物の現状と課題」

南里勇人(正栄塗装(株))「近代化遺産としてのコンクリート建造物の課題」

アルフレッド・ゴットバルト(ドイツ技術博物館)

「20世紀におけるドイツ国内のコンクリート造鉄道施設の概要と保存における問題点」

ロルフ・フーマン(ドイツ考古学研究所)「ヨーロッパにおけるコンクリート建築の事例」

松波秀子(清水建設(株))「大正・昭和初期の鉄筋コンクリート造建築とその保存」

質疑応答より

編集後記



Preservation and Utilization of Steel Structures (①修06の一環として実施)

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書

Foreword

About This Book

Contents

Shunsuke Nakayama, Conservation and Restoration of Steel Structures

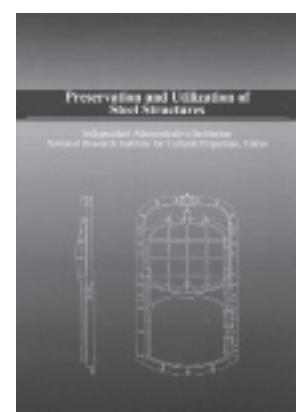
Yasuo Nakauchi, Examples of the Conservation of Steel Structures

Yasunori Tsumura, The Restoration of the Second Vertical Shaft Tower
of Manda Coal Mine

Norio Shinya, Preservation and Restoration of Steel Structures

Questions and Answers

Editor's Postscript



『東アジア地域の文化遺産—文化遺産保護国際協力活動を通じて我々は何を発見し共有しうるか—』(②セ01の一環として実施)

アジア文化遺産国際会議報告書

本書は、2010年3月4日から6日までの3日間の日程で、東京文化財研究所を会場として、日中韓参加国の国立文化財研究所、ユネスコ北京事務所等が参加して開催された地域ワークショップ専門家会議「東アジア地域の文化遺産—文化遺産保護国際協力活動を通じて我々は何を発見し共有しうるか—」の報告書である。(2011年3月刊行)



序文 清水真一（東京文化財研究所）

I 会議の目的／プログラム／参加者一覧

II 主催者挨拶／趣旨説明

主催者挨拶：鈴木規夫（東京文化財研究所）

趣旨説明：岡田健（東京文化財研究所）

III セッション1 各研究所の概要：機構、研究の概況、国際協力の概況

馬清林 (MA, Qinglin) (中国文化遺産研究院) / 金鏞漢 (KIM, Yong-Han) (韓国国立文化財研究所) / 蘇伯民 (SU, Bomim) (中国敦煌研究院) / 井上和人 (奈良文化財研究所) / 友田正彦 (東京文化財研究所)

IV セッション2 各国間で実施している国際協力

1. 石質文化財の保存

1-1) 報告：日韓共同研究の成果 金思徳 (KIM, Sa-Dug) (韓国国立文化財研究所) / 森井順之 (東京文化財研究所)

1-2) 報告：石造文化財の修復材料・修復技法に関する研究—龍門石窟及びクムトラ石窟のユネスコ/日本信託基金文化遺産保存修復事業の成果から 王金華 (WANG, Jinhua) (中国文化遺産研究院)

2. 都城遺跡の発掘と研究、その保存

2-1) 報告：平城京と東アジア世界の都城 井上和人 (奈良文化財研究所)

2-2) 報告：韓国都城の発掘成果と課題 黄仁鎬 (Hwang In Ho) (韓国・国立中原文化財研究所)

3. 壁画研究と保存

3-1) 報告：日中共同研究の成果 岡田健 (東京文化財研究所)

V さらに発展が期待される共同研究・国際協力

1. 木造建築の研究と保存

1-1) 報告：東アジア木造建造物の保存と修復 清水真一 (東京文化財研究所)

2. 紙の文化財の研究と保存

2-1) 報告：紙の文化財の保存と修復—科学研究と伝統技術 加藤雅人 (東京文化財研究所)

3. 文化遺産ドキュメンテーション

3-1) 文化遺産情報の収集・管理・活用—各国の取り組み

李春玲 (LI, Chunling) (中国文化遺産研究院) / 林瑩鎮 (Lim Hyoung Jin) (韓国国立文化財研究所) / 森本晋 (奈良文化財研究所) / 二神葉子、岡田健 (東京文化財研究所)

3-2) 文化遺産ドキュメンテーションの標準化

世界遺産ドキュメンテーションの標準化について 周儉 (ZHOU, Jian) (ユネスコ・アジア太平洋地区トレーニング研究センター)

4. 人材育成

4-1) 各国の状況（国内の人材育成と国際協力による外国の人材育成）

張曉彤 (ZHANG, Xiaotong) (中国文化遺産研究院) / 王旭東 (WANG, Xudong) (敦煌研究院) / 金東大 (KIM, Dong-Dae) (韓国国立文化財研究所) / 杉山洋 (奈良文化財研究所) / 山内和也 (東京文化財研究所)

4-2) 事例報告：日中韓共同シルクロード人材育成プログラム

張曉彤 (中国文化遺産研究院)、岡田健 (東京文化財研究所)

VI セッション4 東アジア文化圏と国際協力（講演）

1. 域内協力—東アジア文化圏における国際協力の意義と可能性 東アジア文化圏という視点と文化遺産保護国際協力活動の意義 杜曉帆 (DU, Xiaofan) (ユネスコ北京事務所)

2. 域外協力—東アジア文化圏を越えた国際協力の推進 文化遺産国際協力コンソーシアムの活動—その理念と未来への希望 前田耕作 (和光大学名誉教授)

VII セッション5 総括討論：研究機関が行う文化遺産保護の国際協力—その意義と未来—

馬清林 (中国文化遺産研究) / 金鏞漢 (韓国国立文化財研究所) / 王旭東 (敦煌研究院) / 井上和人 (奈良文化財研究所) / 清水真一 (東京文化財研究所) / (司会) 岡田健 (東京文化財研究所) / 閉会式主催者挨拶 清水真一 (東京文化財研究所)

『西アジアの文化遺産—その保護の現状と課題—』アジア文化遺産国際会議（②セ01の一環として実施）

本書は、西アジア地域の文化遺産保護に関して、その現状を把握し、今後の日本の国際協力活動の可能性について探ることを目的として、平成23（2011）年3月3日から5日まで開催されたアジア文化遺産国際会議の報告書である。日英併記。(2011年3月刊行)

主催者挨拶

プログラム

基調講演・報告の要旨

基調講演・報告の資料



第24回国際文化財保存修復研究会報告書『覆屋保存を考える』（②セ01の一環として実施）

この報告書は、第24回国際文化財保存修復研究会で行われた報告、質疑応答、総合討議等の内容をまとめたものである。(2010年12月発行)

清水真一「序」

朽津信明「開会挨拶・趣旨説明 —遺跡の覆屋保存を考える—」

1. 講演と質疑応答

アナト・バムルンウォンサ（タイ芸術局）

「プラーチンブリー県の二つ一組の仏足跡の覆屋：その問題と解決への指針」

入佐友一郎（福岡県文化財保護課）「福岡県における覆屋の諸形態と現状」

シン・ウンジョン（韓国国立文化財研究所）「韓国の石造文化財における覆屋の現状と事例研究」



⑥刊行物 Area21

2. 総合討議

朽津信明「研究会総括」

発表者紹介

参加者名簿

『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究 平成22年度成果報告書』（②セ02の一環として実施）

この報告書は、「アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究」による平成22年度分の成果をまとめたものである。（2011年3月発行）

1. 研究費及び研究組織
2. 研究概要
3. 研究成果
4. 資料



『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究2010』（②セ04の一環として実施）

本報告は、平成18年度に開始された東京文化財研究所と敦煌研究院の共同による第5期「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」（5年間）の第5年目活動内容の概略と、5年間の総括を示すものである。

1. 岡田健「はじめに」
2. 岡田健「2010年度活動概要」
3. 2010年度日中共同調査報告
 - 3.1 佐藤香子、井上優子、崔強、張文元、傅鵬「顕微鏡による第285窟壁画の表面観察」
 - 3.2 佐藤香子、井上優子、崔強、張文元、傅鵬「携帯型蛍光X線分析装置による第285窟壁画の彩色の分析調査」
4. 岡田健「敦煌研究院保護研究所研究員の来日研究」
5. 岡田健「総括」
6. カラー図版

関連業績一覧

執筆者一覧



『關於陝西省墓葬壁画記録保存方法的研究2010』（中国語版）（②セ03の一環として実施）

本報告は、2009年度に作成した報告書『日中共同研究 陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究 2009』の全文を中国語へ翻訳し、陝西省考古研究院と共同で校訂を行って中国語版として作成したものである。陝西省を中心とする中国の関係機関、専門家に配布し、今後の研究継続へ向けての基礎資料とした。

前言（岡田健）

1. 活動概要（張建林、岡田健）
 2. 中日合作調査報告（岡田健、佐藤香子、高林弘実）
 - 2.1. 調査対象
 - 2.2. 調査方法
 - 2.3. 調査結果
 - 2.3.1. 東漢・邠王墓出土壁画的分析調査報告
 - 2.3.2. 唐・節愍太子墓出土壁画的分析調査報告
 3. 結語（張建林）
- 著者一覧



『アジナ・テパ仏教寺院考古学調査報告(2006～2008年)』中央アジア文化遺産保護報告集第7巻、日本タジキスタン文化遺産共同調査第5巻（②セ05の一環として実施）

本書は、平成18（2006）年度から平成20（2008）年度まで、タジキスタン共和国科学アカデミー－歴史・考古・民族研究所と東京文化財研究所が共同で実施した「アジナ・テパ仏教寺院考古学調査」の内容を報告するものである。（2011年1月刊行）



ごあいさつ

前 言

目 次

図版一覧

表一覧

1. 調査の概要
 - 1.1. アジナ・テパ仏教寺院の概要
 - 1.2. アジナ・テパ仏教寺院の保護に伴う考古学調査
2. 考古学的クリーニング（2006～2008年）
 - 2.1. 廃土の除去
 - 2.2. 植物の除去
 - 2.3. 塔院区壁体の確認調査
 - 2.4. 塔院区床面の確認調査
3. 寺院外壁の調査（2007～2008年）
 - 3.1. 北トレンチ
 - 3.2. 東第1トレンチ
 - 3.3. 東第2トレンチ
 - 3.4. 西トレンチ
 - 3.5. まとめ
4. 出土遺物
 - 4.1. 土器
 - 4.2. 土器以外の遺物
5. アジナ・テパ遺跡周辺の考古学的踏査
 - 5.1. 考古学的踏査の概要

- 5.2. チョルグル・テバ
- 5.3. ナブジュボンーフジャムロード村周辺の遺跡
- 5.4. アミール・ハムザとユスフの墓
- 5.5. まとめ
- 6. 遺跡周辺の水利システムと環境
 - 6.1. はじめに
 - 6.2. アジナ・テバ遺跡の立地と盆地の地形
 - 6.3. アジナ・テバ遺跡周辺の水利と景観復原
 - 6.4. 現在の水路の流下方向
 - 6.5. まとめ
- 7. おわりに

『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復 2009年度（第5次～第7次ミッション）』中央アジア文化遺産保護報告書第5巻、日本タジキスタン文化遺産共同研究第3巻（②セ05の一環として実施）

本書は、平成21（2009）年度にタジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所と東京文化財研究所が共同で実施した「タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の保存修復」事業の活動内容を報告するものである。（2010年9月刊行）



ごあいさつ

前 言

目 次

図版一覧

表一覧

I. 事業概要

1. 事業の経緯と目的

2. ミッション概要

II. 壁画断片の保存修復

3. 壁画断片の記録

4. アーカイブ資料の調査とデジタル化

5. 壁画断片の状態調査

6. カライ・カフカハⅠ遺跡出土壁画断片の保存修復

7. アジナ・テバ遺跡出土壁画断片ATO1の保存修復

8. フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復

9. 博物館および収蔵庫の温湿度環境

10. 壁画断片の彩色材料および技法の調査

III. 人材育成とワークショップ

11. 人材育成と技術移転

12. ワークショップ

『タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所アーカイブ、カフカハ遺跡群出土壁画』(日本アジア文化遺産保護報告集第6巻、日本タジキスタン文化遺産共同調査第4巻) (②セ05の一環として実施)

本書は、タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所が所蔵するアーカイブのうち、タジキスタン共和国北部に位置するカライ・カフカハⅠ遺跡、チリフジラ遺跡から出土した壁画の資料（線画、模写、復元案、写真）を収める。（2010年9月刊行）

Foreword

Foreword

Preface

Explanatory note

Table of contents

Kala-i Kakhkakh sites

Plan of the Palace, Kala-i Kakhkakh I site

List of the archival documents (English/Russian)

- I. Kala-i Kakhkakh I, Palace, Room
- II. Kala-i Kakhkakh I, Palace, Room 4, West Wall
- III. Kala-i Kakhkakh I, Palace, Room 4, North Wall
- IV. Kala-i Kakhkakh I, Palace, Room 4, East Wall
- V. Kala-i Kakhkakh I, Palace, Room 4, South Wall
- VI. Kala-i Kakhkakh I, Palace, Room 4, Unidentified
- VII. Kala-i Kakhkakh I, Palace, Room 5
- VIII. Kala-i Kakhkakh I, Palace, Room 6
- IX. Kala-i Kakhkakh I, Palace, Room 7
- X. Kala-i Kakhkakh I, Palace, Room 11
- XI. Kala-i Kakhkakh I, Palace, Unidentified
- XII. Chil'khudzhra
- XIII. Color Plates



『カライ・カフカハ I, II 遺跡出土壁画資料集 写真編 2』中央アジア文化遺産保護報告集第 8 巻、日本タジキスタン文化遺産共同調査第 6 巻 (②セ05の一環として実施)

本書は、タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の写真集の第 2 巻目で、タジキスタン共和国北部に位置するカライ・カフカハ I、II 遺跡から出土した壁画断片の写真記録である。カライ・カフカハ I 遺跡から出土した壁画断片約 3,300 点と、カライ・カフカハ II 遺跡から出土した壁画断片 87 点の写真を収めている。(2011 年 3 月刊行)



『アジャンター第 2 窟、第 9 窟壁画 ドキュメンテーションと状態調査』インドー日本文化遺産保護共同事業報告第 2 巻 (②セ05の一環として実施)

本書は、平成 20 (2008) 年度に、東京文化財研究所とインド考古局が共同で実施した「アジャンター石窟における壁画の保存修復のためのインドー日本事業」のうち、壁画の写真撮影および状態調査に関する調査成果を報告するものである。日英併記。(2010 年 7 月刊行)



前 言

目 次

図版一覧

調査概要

1. 調査目的と活動内容
2. 壁画の写真撮影
 - 2.1. 写真の撮影方法

2.2. 壁画の連続写真作成

3. 壁画の状態調査

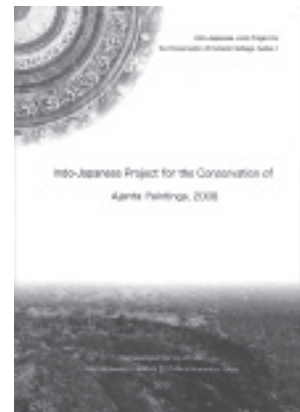
第2窟

第9窟

状態調査

Indo-Japanese Project for the Conservation of Ajanta Paintings, 2008, Indo-Japanese Joint Project for the Conservation of Cultural Heritage, Series 1 (②セ05の一環として実施)

『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業—2008年度（第1次ミッション）—』インド—日本文化遺産保護共同事業報告第1巻の英語版。(2010年12月刊行)



Foreword (G. Sengupta)

Foreword (N. Kamei)

Preface (K. S. Rana)

Preface (K. Yamauchi)

Contents

List of Plates and Figures

List of Tables

1. Outline of the Project

1.1. Aims of the Project

1.2. Overview of the World Cultural Heritage "Ajanta Caves"

1.3. Process to the Conclusion of the Agreement

2. Japanese Encounters with Ajanta

2.1. Introduction

2.2. Brief History of Studies on Ajanta Paintings -The West and Japan-

2.3. Copying Ajanta Paintings: Some Projects Under the Rule of the British Empire

2.4. Encounter Between the Japanese and Ajanta

- Field Investigation of Otani's Expedition -

2.5. Japanese Artists Making Copies of the Ajanta Paintings

2.6. Conclusion

3. Current Situation of the Conservation of the Ajanta Paintings

3.1. Conservation History of the Ajanta Caves

3.2. Preliminary Investigation into the Current state of the Conservation of the Wall Paintings at the Ajanta Caves

4. Brief Description of the Architecture and Wall Paintings of Caves 2 and 9

4.1. Architecture and Wall Paintings of Cave 2

4.2. Architecture and Wall Paintings of Cave 9

5. First Mission

5.1. Overview of the First Mission

5.2. Photographic Documentation

5.3. Condition Assessment

- 5.4. Infrared and Ultraviolet Photography
- 5.5. Environmental Investigation
- 5.6. Investigation of Damage Caused by Bat Excrement
- 5.7. Investigation on Painting Techniques and Materials
- 5.8. Investigation of the Chronology of the Wall Painting

『出土金属の保存処理』（②セ06の一環として実施）

このテキストは、文化財の保存修復の研修に活用するための教材として、考古遺跡から出土した鉄および銅製品の保存処理について基本的なことがらをまとめたものである。（2011年3月刊行）



1. はじめに
2. 金属とは
 - 2.1. 金属の性質と種類
 - 2.2. 金工技術
3. 金属の劣化
 - 3.1. 腐食のメカニズム
 - 3.2. さびの種類と劣化の特徴
4. 取り上げと仮保管
 - 4.1. 遺跡での取り上げ
 - 4.2. 仮保管
5. 保存処理の工程
6. 事前調査
 - 6.1. 表面調査
 - 6.2. 構造調査
 - 6.3. 材質調査
 - 6.4. 仮接合・仮強化
7. クリーニング
 - 7.1. 方法
 - 7.2. 洗浄
8. 脱塩・安定化処理
 - 8.1. 鉄製遺物の脱塩処理
 - 8.2. 銅製遺物の安定化処理（ベンゾトリアゾール法）
 - 8.3. 脱塩処理後の処置
9. 強化処理
 - 9.1. 含浸樹脂の種類
 - 9.2. 方法
10. 接合・復元
11. 保管・管理
 - 11.1. 保管
 - 11.2. 管理
12. おわりに

⑥刊行物 Area22

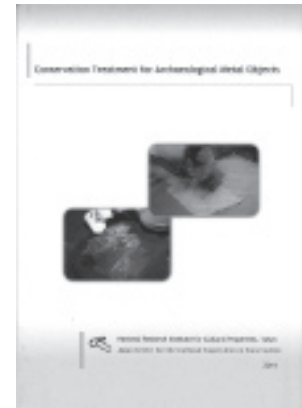
附編 1 保存処理の実例 ～東京都埋蔵文化財センターでの例～

附編 2 脱塩状況の確認

参考文献

Conservation Treatment for Archaeological Metal Objects (②セ06の一環として実施)

このテキストは、海外からの招聘研修等において活用するための教材として、『出土金属の保存処理』を英語に翻訳したものである。(2011年3月刊行)



1. Introduction
2. Metals
 - 2.1. Physical and chemical properties of metals
 - 2.2. Metalworking techniques
3. Metal corrosion
 - 3.1. Mechanism of metal corrosion
 - 3.2. Different corrosive products and characteristic
4. Excavation and temporary storage
 - 4.1. Excavation
 - 4.2. Temporary storage
5. Conservation treatment workflow
6. Documentation and examination
 - 6.1. Examination and documentation of the surface
 - 6.2. Structural examination
 - 6.3. Material Analysis
 - 6.4. Temporary repair and temporary reinforcement
7. Cleaning
 - 7.1. Methods
 - 7.2. Rinsing
8. Chemical reduction and stabilization
 - 8.1. Chemical reduction of iron objects
 - 8.2. Stabilization of copper objects: Using benzotriazole
 - 8.3. After chemical reduction
9. Consolidation
 - 9.1. Impregnating resins
 - 9.2. Methods
10. Adhesion and restoration
11. Storage and management
 - 11.1. Storage
 - 11.2. Management
12. Overview
- Appendix 1 A case study of conservation implementation – Tokyo Metropolitan Archaeological Center-
- Appendix 2 Post-desalination treatment observation

Bibliography

『海外の文化財保存修復専門家養成を目的とする国際研修等の実施に関する研究会』（②セ06の一環として実施）

本書は、2011年2月2日・3日の両日にわたり、東京文化財研究所において開催した同タイトルの研究会で行われた報告、質疑応答、総合討議等の内容を収録した報告書（日本語と英語の2カ国語版）である。また、ドイツで行った同趣旨の現地調査成果についても、あわせて掲載している。（2011年3月刊行）



序文 清水真一

1. プログラム
2. 参加者一覧
3. 研究会の記録

開会挨拶・趣旨説明 友田正彦

発表1 山内和也「独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所文化遺産国際協力センターによる『西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業』の枠組みにおける人材育成・技術移転に関する活動について」

発表2 杉山洋「奈良文化財研究所による国際人材養成研修」

発表3 岡田健「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護人材育成プログラム—その目的と経緯、及び5年間の成果—」

発表4 張可「中国文化遺産研究院（CACH）における国際協力研修」

発表5 朴鐘瑞「ACPCSプログラムのスキームと成果」

発表6 カトリーナ・シミラ「ICCROMにおける国際人材養成研修」

発表7 パッチャラウィー・トゥンプラワット「SEAMEO-SPAFAにおける国際人材養成研修」

発表8 園田直子「国立民族学博物館における国際人材養成研修：JICA博物館学集中コース」

総合討議

閉会挨拶 清水真一

4. 総括 友田正彦
5. 写真
6. 附編 邊牟木尚美「ドイツにおける文化遺産保護の人材育成実施機関調査」

『東京文化財研究所蔵書目録 漢籍編』（③情03の一環として実施）

本目録は、企画情報部の研究プロジェクト「専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）」（情03）の一環として2002年3月に刊行した『東京文化財研究所蔵書目録1 西洋美術関係 欧文編・和文編』以来、順次刊行を進めてきた蔵書目録の第8冊目にあたる。東京文化財研究所が所蔵する約12,000冊の漢籍を収録する。

亀井伸雄「刊行にあたって」

カラー口絵

目次

⑥刊行物 Area22

序—中川文庫の漢籍について

凡 例

図書分類表

分類記号順目録

内容細目



『国際資料室蔵書目録』(③セ08の一環として実施)

本冊子は、2010(平成22)年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した1,087点(和漢書555点、洋書532点)の資料、及び国際資料室で所蔵する雑誌456種類を掲載した目録である。(2011年3月発行)



『各国の文化財保護法令シリーズ [9] フランス』(③セ07の一環として実施)

本冊子は、2009年2月19日に改正された「フランス共和国文化遺産法典」の第4巻から第7巻までの和訳である。第1巻から第3巻については昨年度前編として発行された。さらに参考資料としてフランス語の使用に関する命令をつけた。(2011年3月刊行)



文化遺産法典(後編)

第四巻

第五巻

第六巻

第七巻

註釈

参考資料 公文書及び判決文にフランス語の使用を命じる国王フランソワ1世の1539年8月18日付命令(ビイレ・コットレの命令)

『各国の文化財保護法令シリーズ [10] タジキスタン』（③セ07の一環として実施）

同シリーズは先行の「文化財保護関連法令集」を受ける形で、2008年度より発行を続けているA5版冊子である。諸外国での文化財保護制度を法的な面からアプローチする目的で、まず原文を収集し、研究の第一歩としてその和訳を試みている。

本冊子はタジキスタン共和国での文化財保護に関する現行法を、公用語のロシア語から日本語に訳したものである。また、タジク語の原文も併せて綴じてある。(2011年3月刊行)

歴史文化遺産物件の保護と活用に関するタジキスタン共和国法

(タジク語) Дар бораи ҷиғз ва истифодаи объектҳои мероси таърихию фарҳангӣ

(ロシア語) Об охране и использовании объектов историко-культурного наследия

(参考資料) タジキスタンの文化遺産保存に従事する国家機関



『各国の文化財保護法令シリーズ [11] ブータン』（③セ07の一環として実施）

本冊子はブータン王国の文化財保護に関する現行法の和訳及びその原文となる英語テキスト、および現地の公用語であるゾンカ語のテキストを綴じたものである。(2011年3月刊行)

ブータンの可動文化財に関する2005年法律

The Moveable Cultural Property Act of Bhutan

同ゾンカ語テキスト

ブータンの宗教組織に関する法律

The Religious Organizations Act of Bhutan

同ゾンカ語テキスト

